

取組事例

子どもへの学習・食事支援「学viva」(まなびば)



取組のきっかけ、経過

社会福祉法人さわら福祉会は法人設立以来、福岡市西区で高齢者福祉事業を運営してきた。社会福祉法人のイコールフットINGが叫ばれはじめた頃にさわら福祉会では地域公益活動の実施に向けて検討してきた。その中で施設が所在する地域の子どもの孤食化や学校給食が一日の重要な栄養源となっている子どもがいる等のニーズを発見する。施設としても、未来への投資として、地域の子ども達特別養護老人ホームを身近に感じてもらう事で、将来介護職を目指すきっかけや地域福祉を意識づけになること、また地域での認知度が向上することが施設にとってもメリットが大きいと考え、学習・食事支援を実施する事となった。

取組内容

- ・実施期間:小中学校の長期休み(春・夏・冬)期間の月曜日～金曜日
- ・学習時間:10:30～11:30 昼食時間:11:30～ 以後自由時間
- ・学習支援については、地域住民の方がボランティア(教員OBも含む)で子ども達に学習指導を行っている。
- ・食事支援については、入居者に提供している昼食(栄養管理され、バラエティーのある一汁三菜を基本)を子ども達に提供している。食事の準備や後片付けは子ども達が行っている。委託先:日清医療食品㈱の協力
- ・学viva実行委員会(地域の学校関係者、PTA、自治協、社協等が参画)を立ち上げ、運営から、広報、地域企業への協賛を募る等の活動を行っている。
- ・参加費は1人100円を徴収し、傷害保険費に充てている。
- ・食事代については一人当たり250円を法人で負担している。

活動実績

時期	日数	子ども	ボランティア	時期	日数	子ども	ボランティア	時期	日数	子ども	ボランティア
H28年春	7	60	20	H29年夏	17	356	49	H30年冬	5	64	15
H28年夏	17	185	55	H29年冬	7	120	27	H31年春	10	147	25
H28年冬	8	82	29	H30年春	10	171	29	R1年夏	20	403	65
H29年春	9	118	21	H30年夏	21	355	67	R1年冬	5	101	16



(子供たちが学習する様子)



(栄養バランスが摂れた食事を提供)

取組による効果や課題

【子どもたち】

・学vivaによって子ども達の長期休み中の居場所の確保、自学実習の習慣づけ、子ども同士の宿題の協働や食事の共有をすることによって縦割りにおける成長ができる。休み期間の昼食の確保ができた。

【地域住民】

・学vivaは地域住民自ら運営を担ってをもらうことに主眼を置き、事業を開始した。地域住民が主導することで地域の問題を我が事として意識をしてもらう事で地域福祉の向上につながっていると感じている。地域住民の孤食の解消や役割の創出による介護予防にもつながっている。

【マナハウス】

・地域住民や地域の子供も達が気軽に来所することで、マナハウスの認知度と信頼感が高まった。
 ・子ども達が介護を身近に感じることによって、介護に対する意識も変わった。
 ・職員のモチベーションアップを図ることができている。
 ・元教師の認知症入居者が子ども達に勉強を率先して指導するなど、入居者にとってもプラスの作用をもたらしてくれている。

実施データ

実施の方法／法人独自 複数法人連携
 実施対象／地域住民一般 高齢者
障害者 児童 生活困窮者
 実施頻度／年3クール
 取組に関わる人員／1回につき平均3名程度
 参加者内訳／地域の子供も、ボランティア
 学viva実行委員会

施設長コメント

地域課題を掘り起こし、その解決に向け法人の持つ資源を活用するとともに地域力の活用と向上に努めることは、社会福祉法人の地域における重要な役割と認識しています。
 また継続するために負担をどれだけ分散させるかも大切な要素と考えています。地域貢献活動を「未来への投資」と位置づけ今後も続けていきたいと思ひます。



(小金丸 誠 施設長)

法人概要



法人名／社会福祉法人さわら福祉会
 所在地／福岡市西区戸切3丁目20番8号
 事業内容／マナハウス(介護老人福祉施設・短期入居者生活介護)
 大池けいあい保育園・愛宕けいあい保育園(認可保育園)
 掲載している以外の取組／地域との協働による地域カフェ(ふら〜っとカフェ壱岐南)、地域支援ボランティアグループ(壱岐南てつだい隊)、事業所ネットワーク(西第4,7地域医療福祉ネットワーク)、オンデマンドバス参画(壱岐南のるーと)、小型EVシェアリング事業(福岡トヨタ他)
 職員数(パート含む)／105名